

熊本県立八代中学校 平成29年度学校評価表

1 学校教育目標 「平成29年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を基盤とした本校の綱領である ・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere. ・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined. ・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded. を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。
--

2 本年度の重点目標 ア グローバル人材育成 イ 授業改革（主体的・対話的で深い学びを実現するアクティブラーニングの視点・ICTの活用） ウ 発信力強化（ホームページによる効果的発信・メディア掲載）

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	グローバル人材育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルの基礎力養成	○総合的なコミュニケーション能力育成のために、学校設定科目「対話力」を効果的に実施する。 ○各種ボランティア活動への自主的参加者年間延べ300名以上を目指す。	・NIE、ディベート、M E S E、ビブリオバトル、知の触発等の活動を充実させ、言語活用能力やコミュニケーション能力の伸長を図る。 ・活動の最新の様子について、HPで常に公開する。	A	・NIEの公開授業や全国英語ディベート、M E S E等の大会等へ出場など、生徒のコミュニケーション能力の伸長のために対外的な発表の機会を多く取り入れた。その結果が新聞等でも紹介された。 ・上記の活動の様子をHPに掲載した。
	発信力の強化	◇ホームページによる効果的発信／メディア掲載	○教職員一人一人が発信者となり各人が学校の魅力を発信する意識を高める。全職員、年に1回は発信する。 ○発信は迅速性と適切性に配慮して行う。	・行事関係部署の担当者は、発信をイメージした仕事の段取りを行い、行事は発信するまでが行事という意識を持つ。 ・受信者は主に保護者、生徒、地域の方々、教育関係者ということを考慮して発信する。	A	・全職員がホームページで発信を行い、発信力の強化に努めた結果、学校からの発信に関する保護者アンケートでは、肯定的な意見が昨年度より6.4%上昇し、95.3%となった。
学力向上	教師の指導力向上	◇アクティブラーニングの視点、ICT活用学力の3要素を踏まえた授業改善	○生徒による授業評価において各教科のアクティブラーニング、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業実践についての肯定的評価が70%を超える。	・授業力向上のため、各種研修会への参加やスーパーティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。 ・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・ICT活用やアクティブラーニングに取り組んだ研究授業を各教科年2回実施する。	B	・授業評価において肯定的回答をした生徒の割合はアクティブラーニング72.6%、ICT活用84.0%であった。 ・研究授業や授業力向上のための研修を実施し、各職員の授業改善の好事例を発表し共有化を図った。
	生徒の自発的な学習の促進	◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進	○学年ごとの目標学習時間を設定し、80%以上の生徒が目標を達成している。	・シラバスの活用や適切な課題の配付を行い、学習習慣の確立に向けた指導を行う。 ・年3回、期末考査前に宅学習時間調査を実施して家庭学習、読書等の指導に活用する。	C	・予習→授業→復習の学習サイクルは大半の生徒が確立しているが、家庭学習目標時間の確保ができていない生徒は、58.1%であり、昨年の50.9%から向上はしたものの、さらに自発的な学習に取り組ませる手立てを検討する必要がある。
キャリア教育(進)	進路目標の明確化と大学入試新テストに対応できる学力を身に付けさせる指導	◇6年間を見通す進路指導グランドデザインの完成	○大学入試新テストを受ける生徒に求められる学力を育成するための、6年間の指導方針を完成する。	・様々な自己研鑽や社会貢献活動を通して自己の進路を考えさせるための情報提供。	B	・高校進路部と連携し、随時進路情報を提供した。学力検討会を2回実施し、生徒の実態や教科指導の共通理解を図った。新テスト対応模試の復習時間を設定し、生徒に今後の学習についての見通しを持たせた。 ・グランドデザインの再構築は作成途中であり、完成に向けた作業の継続が必要である。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
路指導)	生徒の進路観、職業観の育成	◇個人の活動体験の活動体験データをポートフォリオ形式で蓄積	○社会と関わり、社会の内包する様々な課題に気づかせ、将来の学びに触れる機会を提供する。	・ポートフォリオ形式によるデータ管理の指導と、各種の体験活動や講演会など、他の部署と協力して実施する。	A	・グローバル改革推進部と連携し、電子データによるポートフォリオ作成のためにClassiを導入した。 ・高校進路部と連携し、東大訪問や東大合格者講話、大学教授招聘事業、八高ガイダンス等を実施し、志を高く持ち努力する生徒の育成を図った。
生徒指導	問題行動の未然防止	◇きまり・心得遵守 ◇観察と情報共有 ◇率先垂範	○校則、心得100%遵守を目指す。 ○生徒情報の共有及び学校からの情報発信を行う。	・校内での生徒情報の共有を図るとともに学校からのメール配信や保護者との情報交換を密に行う。また、情報機器の使用を指導する。	C	・問題行動、校則・心得違反、交通事故などが発生しているが、全職員で連携し細やかに対応できている。全職員での生徒情報の共有は細かくできたが、学校からの情報発信については充実させることができなかった。
	自治的活動の推進	◇自治活動の場面設定 ◇系統的・組織的指導	○年間計画に沿った月、週ごとの目標を立て、達成率100%を目指す。	・時節や行事等に応じた達成可能な目標を設定する。 ・ボランティア活動を積極的に推進する。	B	・適切な目標を設定しながら、各部で自主的・自発的な活動を行うことができた。校内の活動ではあるが、各部でボランティア活動を行うことができた。
人権教育の推進	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し人権教育を推進する。	・年1回、各学年単位で人権部落問題学習を実施する。 ・年2回、校内人権集会を実施する。 ・地域主催の人権集会や各種研修会に1人1回以上参加する。	B	・各学年で部落問題やハンセン病問題、水俣病問題、男女共同参画社会について学習を深め、校内人権集会で部落差別の現状について学習を深めた。 ・職員が集会所でフィールドワークを行い、地区の部落問題の認識を深めた。
	生徒が的確な教育上の特別支援を受けられる体制の整備	◇障害の有無や個々の違いを認識してお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ○個別の支援計画を立てるとともに、予防的な指導及び支援の充実に取り組む。	・授業時や学校生活の中でのきめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年3回実施する。 ・必要に応じて人権教育部会や特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画を立てて、支援する。	A	・特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画を作成し、個に応じた支援体制の充実を図った。 ・生徒理解の職員研修を3回開催し、生徒一人一人の把握につとめた。
	命を大切にすることを育む指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動を通し「命を大切にすることを育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動をおし、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・教科指導において関連する学習内容を確認し、年間を通じた指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	B	・各教科領域等で人権問題を取り上げ、命を大切にすることを育てる指導を行った。
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇いじめの早期発見と早期対応	○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握する。 ○定期的なアンケート調査により早期発見を行う。	・学期に1回アンケートを実施し、いじめの防止・早期発見に努める。 ・学期に1回いじめ防止対策会議を開き、実態把握と早期発見・対応を行い、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。	B	・学期に1回心のアンケートを実施し、その結果をもとにいじめ防止対策委員会を開き、生徒のおかれた状況をきめ細かく把握し、いじめの防止と対策につとめた。 ・教育相談についての職員研修を年2回実施し、すべての生徒の情報を共有し、支援体制を構築した。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	コミュニティ・スクールの発足	◇地域とともにある学校づくり	○生徒の安全、安心を第一に考え、防災避難訓練を年に2回以上実施する。 ○熊本地震を踏まえた防災マニュアルの作成を行う。	・避難経路の見直しを行い、消防署指導の防災避難訓練を実施する。2学期以降、生徒引き渡しも考慮した防災避難訓練を実施する。 ・防災型コミュニティ・スクール運営協議会等の指導・助言を受けて、災害時における本校の役割等を検討する。	B	・シェイクアウト訓練を含め、年3回の防災避難訓練を実施することができた。引き渡し訓練は実施しなかったが、津波を想定した校舎内への避難を行った。 ・防災型CS運営協議会の指導・助言を受けて新たに防災マニュアルを作成した。今後関係機関と連携した避難所マニュアル作成に協力していかなければならない。

4 学校関係者評価
 ・学校の運営方針をきちんと立て、プログラムを推し進めるやり方が定着してきており、学校が良い方向に向かっているので、修正を加えながらこのやり方を継続してほしい。
 ・中高一貫校としての取組が定着してきたように思う。更なる飛躍を期待する。
 ・時代にマッチしたグローバル人材の育成というテーマを掲げ、素晴らしい活躍をしていると思うが、学校全体の底上げということにも是非力を注いでほしいと考える。

5 総合評価
 ・生徒、保護者、職員の学校評価アンケートから得られた肯定的な評価は、概ね70%以上、高いものでは90%以上のものが得られ、昨年度より高いものであった。
 ・学校関係者評価において、学校の運営に対して高い評価をいただいた。
 ・その中で、昨年度の結果より高くはなったものの、高校・中学共に低かったものは生徒の学習時間の確保についてであった。
 ・各部の反省の中で評価が低かったのは、生徒指導上の「交通マナーの向上」と「情報モラルの向上」であり、昨年の件数を上回る事故や違反が見られた。

6 次年度への課題・改善方策
 ・全体的には学校の運営に対して高い評価をいただいたが、このことに満足せず、更なる躍進を目指して、各部各係で工夫・改善を加えながら更なる高みを目指していくことが大事である。
 ・評価が低かった項目である「生徒の学習時間の確保」「交通マナーの向上」「情報モラルの向上」については、改善に力を注ぎ、早急な改善が図られるよう検討していきたい。特に生徒指導上の問題に関しては、命やいじめの問題とも深く関わることであるので、職員一丸となって取り組む体制作りを検討していきたい。